

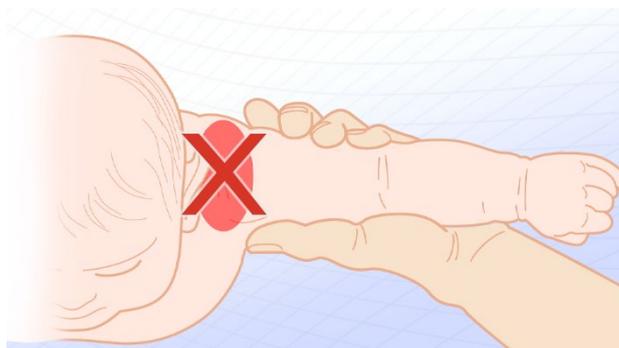
# 接種技術と注意点

## ▶ 接種部位

写真提供 公益財団法人結核予防会



接種部位は上腕外側のほぼ中央部です。  
これ以外の部位に接種しないでください。



特に肩に近い部位に接種するとケロイドを生じやすくなるので絶対に避けてください。

## ▶ 接種方法



接種部位をアルコール綿で消毒し乾燥させます。  
アルコールが乾かないうちにワクチンを滴下すると BCG  
が死滅するので、滴下の前には部位が乾燥していることを  
確認してください。

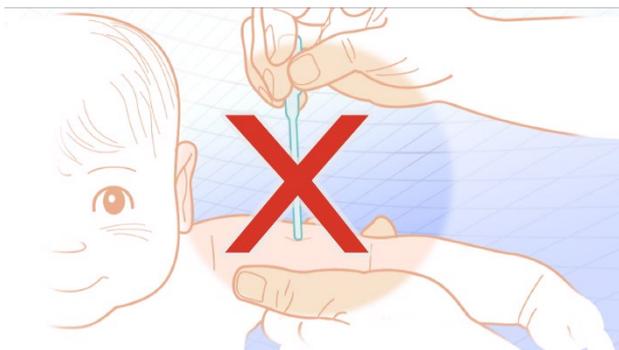


接種する上腕を下から握り水平に固定します。

ワクチン液をスポイトで泡を立てないようにゆっくり吸  
い上げます。



スポイトを垂直かわずかに傾けて大きめの 1 滴のワクチ  
ン液を滴下します。  
通常、1 滴で十分ですが、不十分と思われた場合さらに 1  
滴、滴下してください。



スポイトの先端が皮膚に触れないように注意してください。



滴下したワクチン液を管針のツバの側面で上腕の縦方向に沿って塗りひろげます。

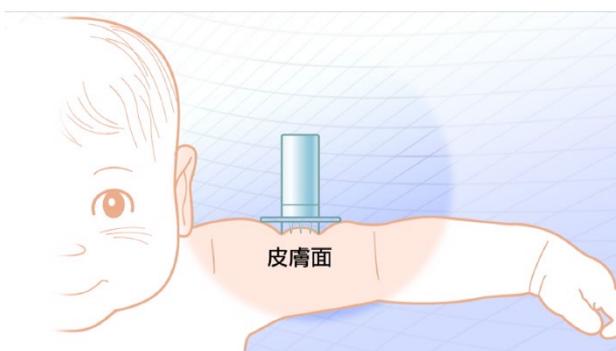
このとき、ツバで強くこすり塗布層が薄くなりすぎないように注意します。



上腕の縦方向に沿って幅約 1.5cm、長さ約 3 cm 程度の範囲に塗りひろげます。

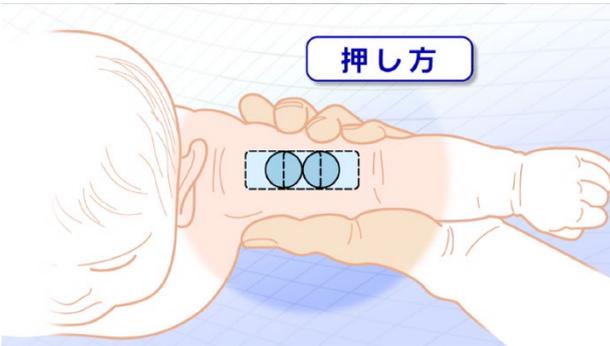


ワクチンを塗りひろげた後、管針を皮膚面に垂直に保ちながら、上腕部を下からささえている手で強く握って接種部位の皮膚を少し緊張させ、ツバの上下両端が皮膚に十分つくまで通常、皮膚が 5～6mm へこむ程度、管針を強く押しつけて接種します。

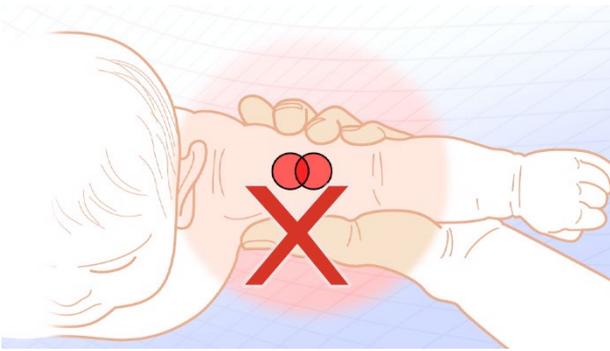




接種のための押圧は2回行います。



2カ所の押し方は、管針の縁でできる円環が腕の軸方向にならんで相互に接するようにします。



2カ所の接種が互いに重なると、針痕の反応が融合し、局所反応が強くなるおそれがあります。

また、管針を押すとき、管針をねじらないように注意しましょう。



押し終わったら、ワクチンを塗りひろげたときと同様にツバの側面で皮膚上のワクチンを2~3回針痕になすりつけます。



接種した針痕から少量の出血をみることがありますが、そのまま放置します。

接種部位は自然に乾燥させてください。